

書道の普及に努める【都留書道連盟】

都留市在住のあるいは、都留市内で教場を開いている書を愛好する者が、自然により集い何度かの会合を持ち、「なんとかグループを作って書活動をしていったらどうか」と話し合われたのが昭和四十年代でした。当時は七名ほどのメンバーでした。それぞれの所属する書団体は異なっておりましたが、「書の求めるものは同じだ」との意識、考え方の中で活動が始まりました。活動方針は、グループの人数の拡大と、書道人口の増加というところからの出発でした。これが都留書道連盟の誕生でした。

これまでに連盟会員の力をより伸ばし、それぞれの持つ技術などの伸長を図るために、また、レバトリの拡大のために刻字講習会、表具の仕方講習会などを開催してきました。また、書道の普及を図るため、連盟会員はもとより一般にまで拡大した書道講習会を、さらに書道の啓蒙のために都留書道連盟主催の教育書道展を開催してきました。高校生、中学生、小学生、園児などの表彰式での顔が印象に残っています。また、例年十一月の都留市文化祭においては、出来得る限りの範囲の人達の作品を公表展示するように心がけております。

「入りやすく、成りがたい」書の道ではあります。使える材料は豊富すぎる程あり、一つ一つを消化吸収し作品とすることができると素晴らしい芸術ジャンルだと思っています。

例えば、細字、仮名、隷書、行書…。書体だけをとってみても豊富にあり、半紙、色紙、条幅…。また、板へ刻る刻字などの表現方法についての材料も数多くあります。すべて毎日の生活に密着している文字を通しての芸術ジャンルであることはご承知の通りです。

今後とも都留書道連盟は誕生当時の目的をもって活動していく予定です。一人でも多く書活動への仲間が増えていくことを望んでいます。

現在都留書道連盟の運営は、左記の役員で行っております。

会長 渡辺長重 ☎(43) 6435
理事長 小倉正雄 ☎(43) 8550
事務局 竹俣忠洲 ☎(43) 6803

書道展の様子



生涯学習通信 生涯学習推進会議調査・啓発部会

のびのび いきいき 生涯学習

生涯学習グループの紹介

現在、都留市内において各種団体に所属し、活動している学習グループや自主的に学習しているグループを紹介します。

子供の心に愛と希望・知恵と勇気を！

【都留親と子のよい映画をみる会】

都留親と子のよい映画をみる会(略称・都留親子映画の会)は「子供によい文化を」と、よい映画を選んで上映して二十二年、これまでに上映した映画は三十七本になります。

昭和四十年は、いわゆる十八歳未満入場お断りの成人映画が六十二本から何と二百八十三本になった年です。それに対し子供達にすすんで良い映画を見せようと埼玉県大宮市の親と教師が親子映画の会を作りました。昭和四十一年のことです。それから各地に親子映画の会が作られ、優れた作品が生まれました。甲府でも「ガキ大行進曲」が自主製作・自主上映され、都留市でも昭和五十三年の第一回親子映画会にこの映画を上映しました。以来、都留の親子映画の会では年二回よい映画を選んで上映してきました。

しかし昨今、子供の数も減り、テレビやテレビゲームなどの影響で入場者が減少して運営が困難になってきたところ、平成八年都留市文化ホール(うぐいすホール)がオープンし、三十五ミリの素晴らしい映写機が備えつけられました。この機会に「午後の遺言状」を上映、併せて新藤兼人監督にこの映画を最後に亡くなられた、愛妻音羽信子さんへの思いを「人は生きていくかぎり生き抜きたい」と題して講演して頂き大好評をいただきました。その後毎年、文化協会、(財)都留楽友協会のご協力を得て、若者、障害者などの映画をとり上げて文化祭に上映してきました。

今、学級崩壊、児童虐待など子供達の心は不安定な中でゆれています。子供達は文化において病んでいる、そんな状況の中で今年はお母さん達の強い願いから、アニメ「ハッピーバースデー」を上映しました。映画を通して子供達の心に生きる希望や勇気が育つようにと願って……。

上映活動が続けてきて、「また見たいです」といって下さることが、私達会員にとって何よりの喜びです。若い人の参加をお待ちしています。

問合せ

都留親と子のよい映画をみる会
渡辺春子 ☎(43) 5040



都留親と子のよい映画をみる会
のみなさん